

虚の符

洪水企画 2013.8.10

イカダ

http://www.kozui.net

虚

5

夏よ
きみは
いつのまにか過ぎていったね

夏よ

小島きみ子

シヤラの木の茂みを揺らす風の向こう
橡の木の下りベンチに
オレンジ色の正午の光がきている
プールから上がってきたばかりのきみは
何の躊躇もなく
クロールの上に寝転ぶ
わたしの足元で
いくつものキスを投げる、きみ
耳の産毛が光っていたね
わたしの指にこぼれる
木の葉のざわめきと
腕に這う幾つもの噴きの舌
それはまるで
すべらかなバスカルの言葉のようだった
(人はきみの自然な文体を見ると、すっかりおどろいて、おおよそひするのだよ。なぜなら。一人の著者を見るのを期待していたところを。一人の人間を見渡すから。)

そして
秋の図書館の窓ガラスに
きみのあのヒヤシンスヘアーの髷が映っていた
風がひどく高鳴って
ああ、もう、本など読めなくて
目を上げると
ほんとうにもう、きみはいなかった

漏水
平井達也

勤め先のどこかで漏水しているらしい
バルブを閉めてもメーターは
団地住民の失意の数を刻み続ける
明日は仕切弁の増設工事
傷つてしまった部位を特定するために
団地の地下で何が壊れかけているのか
配管図に印をつけるために
水が漏れて
潤わねばならないところが乾き
濡れるべきでない箇所が
湿っている
その現状はまだ視覚では捉えられず
私たち従業員のか
かすかな再立ちとして発現しはじめたところだ
応急措置として
仮配管を巡らすという手段もあり得るらしい
仮の水路に流れを導き
破損部分からの漏れを防ぐわけだが
不自然な経路でしのでいると
どこかに無理な水圧がかかるのではないか
みんなを思っている
誰ももう口にはしない

康
池田
魂送り
銀の波
金の波
星の消息
銀の波
青空の律
金の波
とかれた円
銀の波
白い血の文字



旅立ちに
神泉 薫

When the night has come
And the land is dark
And the moon is only
Light we'll see...
ふいに風に乗って 蘇るメロディ
時のジュークボックスを鳴らしたのは だれ?

それは きみの 制服の 青、まぶしい ワインヤツの 白
月日をわたる デッキシューズが 弾む四月を 打ち鳴らした
果てしなく鉄錆びた一本の線路 明日へと挑む少年たちの後ろ姿を
オレゴンの太陽と空は 励まし続けた

ココロを飲んで 額突き合わせ語るいくつもの夜が
はしゃぐ子犬みたいに 髪なびかせ
ゆるるハンモックに素足さらす一度きりの夏が
やがてきみにも おとずれ

キャッスルロック、ロイヤル川を渡り、
卒業 ベーシを捲り
別れを越える きみの声
この広い大空に 煌めくせせらぎが聞こえて

Stand by me
いつだって
そばにいる

誓いを立てれば出発の ホイッスルが鳴って、
Darlin' darlin'
Stand by me oh stand by me...

昨日より少しだけ小さく見え始めた田舎町の片隅で
これからどこへいくんだろう？
とびつかり笑顔みせて
きみは

※ベン・E・キング作「Stand By Me」(一九六二)歌詞から引用、ロフ・
ライナー監督、原作、ステイヴン・キング、映画「スタンド・バイ・ミー」
(一九八二) 参照

醜悪 (パンダ編)
小熊昭広

パンダに同情した
そう、私も偽娘なんです。
緑の草を
食べたおかげで、創造しちゃった
えっ、字の間違い？
そんなことはありません。

彼と彼女の
あれを、見つけてしまったから
小さくて、ふくらましてきて
それでいて、赤い

秘め事なのに
どういうわけだか、見られている
でも、覗き見って
嫌いじゃない
捕まる人って
想像する
監禁されるのね
動物園に

夏昼夜の唄 (カチューヤのうた)
海埜今日子

金糸雀
ここを渡るうわさが、なつをもちした。いつかだんらんの、
このよふけ。にがしておやり、とりさん、まちか。そう
いえば、かごのまま、らつかしたカナリヤ、したことが
ありました。ころをとめる、せつなです。とじたは
ねの、なんてこえなく、けばたつのだろ。またあえる
でしょうか、と、うめたどろ。きつといのりは、かやの
そとへも、ひざしだったか、ひまわり、うなだれ。

蛾
だんだん、うわさが、ああ、どうやら、このあたりにす
みついてしまったのかもしれない。あせんで、みちの
ゆくえ、とたんに、きりすてたくなつて。ねったいや、
まるでよぶように、しずくをもらす。とんでひにいる、
かれらは、どうして、いけるために、いなくなる？
るのひざしは、わたしにゆれる。あおくやけた、おかん
ひとつ、さるすべり、まだ、ずつと、さくばんだつたね。

白粉花
つぶしたたねを、はこいりむすめさん、ころにまいた
ので、いつもむせていたのしょうか。なつのけししよう、
とどけましようか、いえ、だんらんなら、かつてにうめ
ていたのです。まだあえないので、うわさに、みみをす
ませました。おしろい、ひとり。こえ、はぐくむなら、
とびますか？ なんて、ふるえる、よそおい、まちか。
ひざしがまだ、しみいるようで、ひととなつ、すつて。

蟬
またかまびすしい、なつのしがはじまる。なんども、お
とすれ、せみしくれ。しずんだ、ぜつちようのような、
むしのあめです。きぬにふくんだ、ほとりのような、こ
ころです。あさがおなら、ひとりふんだけ、たずねませ
ん、ならきつと、うわさもおわない、ききたかった。と
おいしせんが、じめんむけて、おほえます。ひざしの
つくる、あめつが、たくさん。こえのはな、ふくんでね。

蓮
そのひとだつたら、いきさまでした。うわさのあいだに、
ひびく、はななら。あさのしずくをやぶきました。それ
でもまだ、おわりのはじまりを、ゆつくりほうむる、で
んこんです。せいのはずまり、ひろげました。せつした
ごらんで、いつかだんらんで、なんて、どろぞ、ふゆまで、
しらない。とりさん、まちか。ころがうごめく、しじ
まです。ひざしなら、いけるために、とじるはねよ。

(脳天にとって意外なことに林縁のそれは……)
たなかあきみつ

脳天にとって意外なことに林縁の
それは青みがかった灰色の切羽詰まつてか
それとも相も変わらず灰ばむ青か
G Bの《青空》本の表紙の色か(一九三〇年代の空の色
……と覚しき色?)それとも
G Bの明眸の吐息の色キラツと
そしてキラツと大わらわの光のチェインソウの奢りだ
あのおちよば口の仔猫にどうして
鳥をあれほどすばやく、銜える力があるのか
通常切手の雀よりも丸々とした鳥名不詳の鳥の天辺は
思わずぶつっ鮮血のように赤い
ラヴェルの弦楽四重奏曲へ長調第三章のとりわけ
ピツツイカートのように赤く飛び散るあまた曲球は
ぐねつと消費を虚空で行方しれず球道のモノカゲは
今のところ仔猫の醜さよりも未確認だ
あらゆる未確認物体のモノカゲが降り注ぐ
モノカゲは堆積し現に堆積しつづけるまともや
ない窓ガラスのないないづくしに烈風飛散する河原よ
《飛散する河原》というロゴ自体に狼狽せよ!
CDの透明ケースにセロテープの接着剤のしつこい残滓
だんぜんその飛び地やかすかな隆起を

消しゴムで壊死させつつひとときわクリアにしよう
としこしこもあわや多重点御用達とばかりに
モノカゲはあいついで群棲する
おお、至極はさかで！ おお、めりすま!
消しゴムにとって奇しくも奇数の臍鞘炎の
じんじんと、そう文字通り緩斜面だから
地肌のじんじんとしま……

いざ逆立ちする撥水ゼロの脳天と化すや
ゆうやく午後の浅瀬に突き刺したいか
晴雨兼用のアクリル仕上げの日傘を
どうだ尖端性の日向そうでのまんざらでもなく

もはや白亜紀ではない
二条千河

その時 何と叫んだか
長い長い頸部を垂直に伸ばして
宇宙を仰いだ首長竜よ
今は青天を突き刺す鉄塔となって
北風におばらを晒している

道端の草むらに
半ば埋もれているおまえは
親を亡くした角竜の仔か
錆だらけの軽トラクになり果てて
泥水を体腔に滴らせている

どんなに大きく育つても
死んじまったら負けだよな と
電線の上で羽繕いをしながら
小さな嘴がさえずり合う
アンテナの先に絡まって
翻つて、よじれて、煽られて
今にも千切れそうな翼竜の皮膜
そらしてしがみついている
飛べないものはいずれ飛ばれるのに

もう白亜紀じゃないんだつて
彼らに教えてやりたいけれど
聞こえやしないだろうねえ と
籠の中の留まり木で
羽毛恐竜がひとりごちる
どんな姿に変わつても
生き残つたら勝ちなのさ と
夕日を浴びる鉄塔の背から
闇色の翼が羽ばたいた

ごらん わたしは生きている
だから勝ちなのさ と
ため息にも似た高笑いに向こう
破れたビニールシートが風に飛ばされていく
そうだねえ、ただ……
籠の中の恐竜はひとりごちる
どこにいても
あたしらの白亜紀はねえ
もう終わつたんだよ と

硝子棚
森山 恵

姉は
ガラスの小鳥を集めていた
色とりどりの
指先ほどの
小さな置もの
白い文鳥のようなものや
ブルーの尾ながや
赤いくちばしも
細々と
ガラスの棚に並べて
透き通るものを殊に愛して
白い綿の上にとろと
大切に

けれど
あのほつそりとした
鳥たちの脚は
ぼきり
ぼきり
と
折れていった
ひとつふたつと置ものは
傾き
毀われ姿を消していった

あれは
なんの子兆だったか
少女の
飛ばないガラスの小鳥たちは
目をあげると戸の向こう
庭土のひとつところが
光っている
光るはずのないものが
ひかりはじめ

今回の執筆者
小島きみ子＝長野県佐久市
神泉薫＝神奈川県相模原市
海埜今日子＝東京都世田谷区
二条千河＝北海道白老郡
平井達也＝東京都練馬区
小熊昭広＝宮城県柴田郡
たなかあきみつ＝東京都国立市
森山恵＝東京都豊島区
池田康＝愛知県名古屋